

Story #13 サロベツが生み出す「大地の恵み」



工房レティエ

田中 あも さん

広大な宗谷の大地で育った牛から
生み出される大地の恵み。手作りの
乳文化の息吹をたっぷり感じる。

■のびのびと

した酪農を

目指して

支えています。

私の父は、もともと兵庫

県で牛乳の共同購入活動を

していて、食の安全、安心

を追求していくうちに、自

分で牛を育てるところから

始めるしかない、自給自

足の生活を決意し、兵庫

の山奥に移り住んで生活を

始めました。そうして一家

での酪農を中心とした自給

自足生活が進んでいく中で、

もっと広い場所で放牧によ

る酪農がしたいと思うよう

になり、放牧ができて気候

も酪農に適している豊富町

へと移住してきました。そ

れが今から三十年前、引っ

越した先は何もない原野。

最初は家もなかったの、

ドラム缶風呂、テントでの

生活でした。そこに牛舎や

住宅を地域の方の協力を得

て自分たちの手で建てたそ

うです。私はまだこのとき

生まれていないのですが、

当時の生活の苦労話は父か

ら聞かされています。そん

な自給自足もだんだんと軌

道に乗り、農協に加入して

生乳の出荷や、牛肉・卵の

販売ができるようになりました。

移住八年目、子どもたち

が大きくなり手が離れた父

は、自分たちの牛乳でチー

ズを作ろうと、近隣の酪農

家とともに「農家チーズネ

ットワーク」を結成しチー

ズ作りに没頭します。

放牧によりおのびのびと育

った牛たちから絞られた牛

乳で作るチーズの美味しさ

は口コミで広まり、北海道

その後、酪農近代化事業
によって施設の拡充、規模
の拡大が進み、飼育技術
の向上などによって搾乳量
も増加し、今では「酪農の
まち」として豊富の産業を



宗谷のシンボル・利尻山をバックに、サロベツの大地でゆっくと過ごす牛たち。夏にはこうした景色をよく目にする。(写真提供：認定 NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク)



牧場絞りたての牛乳を使った六種類の完全無添加のナチュラルチーズ（写真左）は、手作りの優しい味わいが自慢。（写真右）



牧場に隣接する「工房レティエ」

洞爺湖サミットでも使われました。こうして乳製品の製造を行うために「工房レティエ」が開設されたのです。

また、当時酪農から乳製品の加工、製造、販売という農業の六次産業化はあまり事例がありませんでした。この地域の皆さんと協力して父がやったことが結果としてその先駆けとなったのだと思います。

そんな波瀾万丈の私たち一家ですが、現在、父は第一線を退き、私も含む三人の子どもたちが引き継いでいます。

■自慢の牛乳 や乳製品

牧場を継いだ兄は、「牛にとって良いこと」を追求し、放牧にこだわった酪農を行っています。父が移住先として豊富町を選んだのも放牧ができるからなのです。実は放牧ができる地域は意外と少ないのですよ。広大

な大地を自由に歩き、自然の餌を食べて育った牛はストレスが少なく、摂れる牛乳はコクがあるのにあっさりとした飲みやすさです。

そして、姉はチーズやジェラートを手がけます。チーズは完全無添加の六種類のナチュラルチーズ。兄の牧場の搾りたての牛乳を使って手作りした優しい味わいが自慢です。また、ジェラートの牛乳、卵は自前、砂糖は限界まで減らし、添加物は一切使っていません。

放牧牛のお乳は成分や風味が常に変化するので、チーズやジェラートも季節によって味が変わります。四季の移ろいによるそのときどきの味わいを感じてもらえたらうれしいです。

そして、私は「工房レティエ」の代表として兄や姉たちが作り上げたものを販売しています。「レティエ」はフランス語で「小さな乳製品の加工所」。大量生産が

決してできない、農家の素朴な手作り乳製品をより多くの方に味わい、親しんでいただけるように心から願っています。

■豊富の 風土と酪農

ここ宗谷、豊富町のエリアの特徴としては、酪農家それぞれがエネルギーでこだわりの牛を育てていることです。放牧をやっている農家があれば、ロボットによる酪農を試みている農家さんもあります。酪農を通していろんな取り組みを行っているのです。サロベツの大地では人の数より多い牛たちがのんびりと草をはむ風景で、一日がゆったりと過ぎていきます。ぜひ、観光でお越しの際はこの地で生み出される大地の恵みも感じてもらえればうれしいです。

Story #14 宗谷が生きた「歴史」をひもとく



利尻富士町教育委員会

山谷 文人さん

太古の宗谷・利尻島へタイムスリッ
プ。利尻山はこの地のシンボルとし
て君臨し続けている。

■宗谷の原始 から古代

利尻島の遺跡を頼りに時
代をさかのぼっていくと、
北海道が大陸から離れ島と
なった旧石器時代に、すで
に利尻島で人が生活してい
たことがわかっています。
では、この人たちは一体ど
こからやってきたのでしょ
う。それは氷河期が終わり、
地球温暖化が進む中で、シ
ベリア大陸から南下してき
た人たちの動きと関係して
います。

島は日本への玄関口だった
わけです。

そして、縄文時代を迎え
ると、今度は南のほうから
宗谷へ人が渡ってきます。

これは、この頃から形成さ
れた対馬暖流の影響が大き
いと考えられています。利
尻島では港町1遺跡から円
筒形の土器が出土しており、
青森や北海道南部からの影
響を強く受けていることが
わかります。また、縄文時
代晩期には東北の亀ヶ岡文
化の影響を受けた土器も発
見されています。

■続縄文と オホーツク

本州では稲作が伝わり弥
生時代に入る頃、北海道で
はそれまでの狩猟を中心と
した続縄文時代を迎えます。

この時代の遺跡を見てみる
と、縄文文化の流れを受け
継ぎながらも、本州との交
易などにより弥生文化の影
響を少なからず受けている
ことがわかります。北海道
はこの続縄文時代を経て、
擦文時代へと突入していき
ます。

そして、北海道の中でも、
このエリアでしか見ること
ができないオホーツク文化
期になると、再度北方のア
ムール川流域やサハリンか
らの人の動きがみられ、は
じめに利尻、礼文を含む宗
谷地域で独自の文化が形成
され、その後日本海を南下
して奥尻島にまで到達する
グループとオホーツク海沿
いに広がっていくグループ
が現れました。

オホーツク文化期の遺跡



鴛泊市街地にある「利尻富士町役場遺跡」は、縄文時代からオホーツク文化期までの土器や埋葬品が出土。近接するペン岬遊歩道を散策すれば遺跡を一望できる。(右上)

「港町1遺跡」から出土した円筒形の縄文土器。南からの影響を強く受けていることがわかる(左上)

利尻富士町役場遺跡で発見されたオホーツク文化期の骨角器と石器。(左下)

竪穴住居やお墓から出土した土器や埋葬品などは、利尻島内の「りっぶ館」で展示している。(右下) 温泉も近設しているので、利尻島の歴史散策のついでに疲れを癒やしてみてください。

として利尻島では、狩猟などに使われた骨角器や石器、北方の大陸からサハリンもしくは本州を経由して伝わった鉄製のナイフなどが発見されたり、オホーツク人が飼育していたカラフトブタやイヌの骨も出土しています。オホーツク人のクマに対する信仰は厚く、クマの頭骨などを住居の祭壇に捧げていたようです。また、トナカイの角を彫ったクマやクジラの彫刻品も利尻町のマワツカ貝塚から出土しています。その彫刻品と完全なカタチで出土した二つの土器は、オホーツク文化における儀式や精神世界を考えると、貴重な価値を持つていことから、北海道指定文化財になっているほどです。(利尻町立博物館所蔵)

栄とともに生活した島の人々の様子をのぞいていただけますので、利尻島へお越しの際はぜひお立ち寄りください。

■ 利尻山に魅せられて

陸路の交通が発達する前は舟による移動が基本で、ヒトの移動やモノのやりとりも海上交通によるものでした。そのため、利尻山はそのランドマーク(目印)として重要な役割を果たしていたと考えられます。今もこの地域のシンボルとして多くの人々を魅了する利尻山は、古くから愛されてきたのでしょうか。

■ 歴史を今に伝える

北海道は明治時代以降の開拓の歴史が一般的に知られていますが、それ以前にも本州と同じような歴史が存在します。しかし、北海道の古代を生き延びた人たちは、文字を持たなかったため古文書などの記録がほとんど残っていません。そのため、発掘によって出土したものや、本州側の出土品や記録などから歴史をひもといていくこととなります。そして、それらを地域の皆さんや観光で訪れた方へ伝えていくことが私の役目だと思っています。

自然や花々、食を目的に島を訪れる方が多いですが、実はここ利尻島を含む宗谷にも古代から人が住み、独自の文化や生活の営みがあったことを少しでも多くの方に知ってもらえたらうれしいです。

Story #15 遺跡があぶり出す「幻の文化」



礼文町教育委員会

藤澤 隆史さん

続縄文時代が訪れた北海道に存在した、幻の「オホーツク文化」。宗谷地域はその出発点だった。

■オホーツク文化とは

はるか昔、本州では古墳時代から平安時代にかけて、北海道は続縄文時代から擦文時代を迎えますが、実は北海道北部や東部にかけて、もう一つの独自の文化が存在しました。それが「オホーツク文化」なのです。

オホーツク文化は、オホーツク海を中心に北海道とサハリンと北海道の一部に、続縄文文化とは全く異なる独自の文化を持つ人々が住んでいました。彼らはオホーツク人と言われ、民族学的には、現在のサハリンの北方や大陸のアムール川河口付近で生活していた「ニヴフ」と言われる少数民族

の祖先とされています。七世紀頃の東アジアを見てみると、唐を中心にした多くの国があり、多くの民族が暮らしています。国や民族同士の争いが多かった激動の東アジアの歴史もオホーツク人が新たな地を求めて北海道へと南下した理由の一つかもしれません。

六世紀以降になると、彼らは枝幸以南に進出していきます。この頃、既に北海道には続縄文人や擦文人が暮らしており、彼らは続縄文人、擦文人があまり住んでいなかったオホーツク海側を中心に進出していきましたが、中には続縄文人のテリトリーが強かった日本海側に南下する冒険心の強い者もいたようで、奥尻島ではオホーツク人の住居跡が見つかっています。

■玄関口としての宗谷

五世紀頃北海道へ南下してきたオホーツク人が、まずたどり着いたのが利尻、礼文、稚内。そのため、このエリアでは、古い時代のオホーツク文化の遺跡が見られます。

■オホーツク人の生活

海で生活する彼らは、魚や貝などの漁に加え、クジラやトドなどの海獣類を獲っていました。肉や油の確



マッコウジラの歯で作られた女性像と動物像。オホーツク人の精神性を物語る数少ない貴重な出土品で、北海道の有形文化財にも指定されている。(右上)

発掘途中のゴミ捨て場。たくさんの魚や海獣、鳥の骨、ウニ殻など、オホーツク人の狩猟や食生活がわかる重要な場所。(右下)

発掘された出土品を展示している礼文町郷土資料館。開館期間の5月から10月の間、フェリーターミナルから徒歩1分で「幻の文化」の一端を垣間見ることができる。(左上)

オホーツク文化の出土品は館内の2階に展示されている。土器や石器、骨角器などオホーツク人の暮らしを物語る出土品が多数展示されている。(左下)



保に加えて交易品として貴重な毛皮も取れる海獣は重要視されており、骨は骨角器として加工され、生活を支えていました。

彼らは骨角器を作る上で、機能的には必要のない装飾を施すなどのこだわりを持っていました。また、土器についても生活に必要なようなミニチュア土器など、遊び半分で作ったと思われるものが出土しています。

このように、オホーツク人はアイデンティティの表現が豊かで、毎日生活するのに精いっぱいというよりは、少し余裕があり、生活を楽しんでいたようです。

また、基本的に争いを好まないオホーツク人ですが、彼らが見せた荒々しさが日本書紀に記されています。それによると東北に住んでいた和人が「北の果てに言葉の通じない奴らがいる。」と記述しており、争いをしてその人たちに勝ったと記述してあります。これが記録

に残る唯一のオホーツク人だと思われれます。

■オホーツク文化の魅力

アイヌ民族に「熊送り」という儀式がありますが、オホーツク人も同様にクマを特別な存在としており、神への捧げ物として儀式に使われていました。

このように、宗谷から始まり北海道東部へと広がったオホーツク文化ですが、南下していくうちに、擦文人との交易により、徐々に擦文文化へと近づきアイヌ文化へと受け継がれたのかもしれません。

長きにわたって「幻の文化」とされてきたオホーツク文化は、発掘調査が進むにつれてその全貌が明らかとなってきました。考古学は発掘されたものから考える学問なので、なかなか当時の人の気持ちを考えることは難しいのですが、オホーツク文化の出土品は人間

の内面や心が投影されているものが多いのです。オホーツク人の人間くささや、アイデンティティが感じられて強く惹きつけられます。

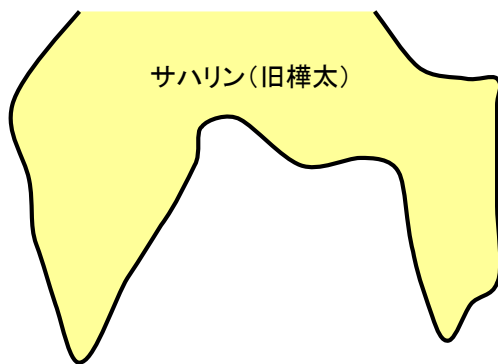
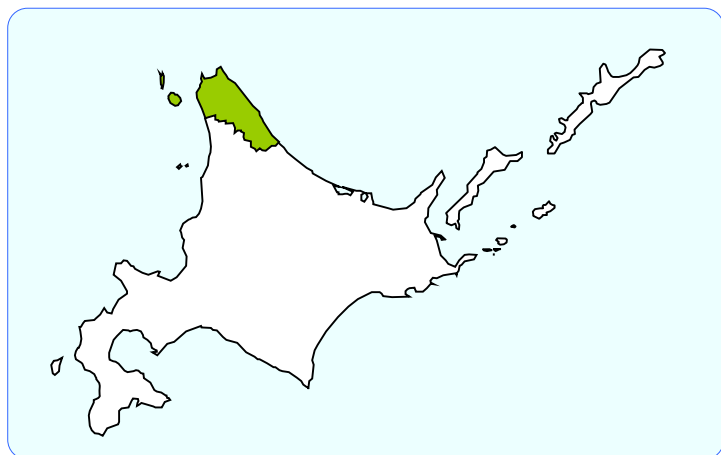
■礼文島で見られる軌跡

礼文島では、オホーツク文化期の遺跡が状態の良い形で見られます。中でも「香深井1遺跡」は、オホーツク文化が注目されるきっかけとなったとても重要な遺跡です。また、「浜中2遺跡」は、同じエリアでオホーツク文化期の前後も含め、さまざまな時代の出土が見られる珍しい遺跡です。

礼文島はその環境から遺跡の保存状態が良く、他の地域では残らないようなものが出土しています。また、遺跡からの情報量が多いのも特徴です。

出土品の一部は礼文町郷土資料館でごらんになれますので、ぜひ足を運んでみてください。

宗谷の「歴史・文化」スポット紹介



宗谷海峡



- ① 宗谷岬、宗谷岬灯台 (Story1, Story3)
- ② 赤れんが通信所 (Story2)
- ③ 稚内灯台 (Story3)
- ④ 宗谷本線／幌延町秘境駅 (Story4)
- ⑤ サロベツ湿原センター (Story5)
- ⑥ クッチャロ湖水鳥観察館 (Story6)
- ⑦ ウソタンナイ砂金採掘公園 (Story7)
- ⑧ そうや自然学校 (Story8)
- ⑨ 旧瀬戸邸 (Story9)
- ⑩ 利尻島郷土資料館 (Story10)
- ⑪ さるふつまると館 (Story11)
- ⑫ 枝幸町観光協会 (Story12)
- ⑬ 工房レティエ (Story13)
- ⑭ りっぶ館 (Story14)
- ⑮ 礼文町郷土資料館 (Story15)

「ふるさと納税」について
 この冊子は、北海道を応援する皆様からお寄せいただいた「ふるさと納税」を活用して作成しています。
 ふるさと納税の制度を活用した事業の内容については、北海道のHPでご紹介します。
<http://www.pref.Hokkaido.lg.jp/ss/ckk/hurusatooentoppage.htm>